

公共事業再評価調書（県土整備部）

課室名	まちづくり局公園緑地課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	公園緑地課長 中川 晋 (岡島 日登志)	内線	4475 (4486)
-----	-------------	---------------------	-------------------------	----	----------------

事業種目	都市公園事業	事業名	事業区間	総事業費	約105億円
		丹南都市計画公園事業 丹波並木道中央公園	篠山市西古佐		

所在地			事業採択年度	現地着工年度	完成予定年度
篠山市西古佐			H3	H3	H19(予定)

事業目的	事業内容
「森」をテーマに快適な生活環境づくりを目指した「丹波の森構想」に基づき、史跡や文化施設等の地域資源を緑あふれるネットワークで結び、丹波地域での広域レクリエーション及び地域活性化の拠点となる公園づくりを行う。	A=70.9ha（第一期） 丹波の郷ゾーン、丹波の森ゾーン、シンボルの道ゾーン、にぎわいの町ゾーン 実施済：41億円（38.6%）

進捗状況	事業区域内に多数の埋蔵文化財の分布が想定され、造成エリア内の確認・発掘調査に時間を要している。なお工事については、調査の終了したエリアから順次、調整池や進入路等の基盤整備を行っている。 用地買収は完了している。
------	--

評価視点	
(1) 必要性 安全・安心 地域の活性化 快適・ゆとり 地域ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・現況の放置された樹林を林相転換（針広混交林）することにより、混交歩合が改善され、土砂流出防止機能の改善が図られる。 ・「にぎわいの町ゾーン」の施設を活用し、定期的なイベント・地元農産物の販売等を実施することにより、訪れる人々の交流・都市と農村の交流が図られ、地域の活性化・雇用創出等が図られる。 ・緑豊かな森や渓谷美等の地域資源を生かした公園整備を行うことにより、丹波の歴史や文化等に触れながら、学習・散策・休養等を行うことができる。 ・スギ・ヒノキが中心の植生を林相転換することにより、明るく親しみのある快適な森空間が創出され、樹林等の緑により四季折々の季節感・心の安らぎ等の精神的充足を得ることができる。 ・森を中心とした新しい文化都市の形成等地域活性化に対して、地域住民や地元自治体から強い要望がある。
(2) 有効性効率性 有効・効率	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波の歴史を次世代へ引き継いでいくため、発掘された埋蔵文化財等を有効に活用し、部分的な開園供用を行い事業効果の早期発現を目指す。
(3) 環境適合性 環境適合	<ul style="list-style-type: none"> ・自然との共生・県民との協働を図るため、森づくりの里山活動、歴史・文化学習等の県民参加型の活動を予定している。
(4) 優先性 災害関連 ポジット外関連	_____

県土整備部の考え方

評価の結果	継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。
-------	----	------	---------------------